



コミュニティ・スクールだより

おおやぐち

令和7年度 第3号

令和7年11月11日
板橋区立大谷口小学校

PTA会長 佐藤 香織
校長 宮澤 竜太郎

第3回 板橋区コミュニティ・スクール(iCS) 推進委員会の御報告

第3回板橋区コミュニティ・スクール(iCS)推進委員会を10月29日(火)に実施し、熟議のあとで給食を試食していただきました。熟議では、「学校の近況について」をテーマに意見交換を行いました。

委員会 次第

日時：令和7年10月31日(金) 11時00分～13時00分(給食試食を含む)

場所：大谷口小学校 ランチルーム

内容：★学校公開日授業参観(11:00～11:30)

★コミュニティ・スクール推進委員会(11:30～12:15)

- 1 委員長挨拶
- 2 学校長より挨拶
- 3 熟議「学校の近況について」授業参観を通して気が付いたこと。
- 4 事務連絡



校長より

1 運動会について

○一日順延とさせていただき、各御家庭には御迷惑をおかけしたが、子供たちはどの学年も、練習を始めてから本番の約一ヶ月で大きな成長を感じた。順延となった翌日も子供たちが集中力を切らすことなく高いモチベーションで臨めた背景には、先生方の日頃から指導や声掛けがあつてこそと思う。御家庭の御協力も大変感謝です。

●運動会中の路上喫煙について近隣住民の方より苦情あり。次年度への対策も考えていく。

2 学習発表会に向けて

○学習発表会のねらいは、子供たちが今年度これまで学んできたことについて「子供自身が自信をもって、友達と協力して発表する」ことにあると考える。発表自体は子供たちが自分なりに精一杯の努力する姿を見てほしい。一人ひとりが発表して良かったと思えるような会にしたい。

3 不登校対策について

○10月30日付報道より「小中不登校35万人最多」の記事から、傾向として低学年児童の不登校が増えている。コロナ禍における集団生活様式の未定着、「学校に無理をしていなくてもよい」といった保護者の意識の変化が主な要因に挙げられる。学校として、「一人も取り残さない姿勢」は不変だが、不登校と言っても様々なタイプがいる。担任一人で抱えず、組織対応、周りの機関や地域とも連携する。

委員の皆様より

学校公開授業参観後に、御意見をいただきました。

○たくさん挙手する様子が見られ、先生方が授業で工夫している様子が伺えた。姿勢の悪い児童が気になった。
○廊下の図工作品が充実している。中学年の俳句作品など、自分の思いをよく表現している。自分の言葉で表現していて感心した。

○子供たちは全体的に落ち着いて学習しているが、トイレへ行くにも教員の許可を得ずに出ている子がいた。教員によって、児童の対応に差があるように感じた。

○算数少人数指導では、2クラス3展開で実施だが、学年によって学力差が見られる。手厚くしているが難しい面がある。クラス分けの仕方にも工夫が必要。

○自己調整型学習。1年生で自分の意思を言語化していた。(保幼小接続前の)保育園等でも虫の観察等、子供がセレクトできる場面について検討していきたい。

○学級園について、今後もっと活用しても良いのではないかと。地域へ開放しても良いのではと思う。

○Chromebook、電子ドリル等、学級間に使用頻度の差がないか。

○あいさつ・・・日常でできることでできていない子がいる。(学校としても課題として捉えている。)

熟議

「学校の近況について」

第4回コミュニティ・スクール推進委員会は

令和8年1月22日(木) 10:00より 第二音楽室にて行います。

(文責 校長 宮澤 竜太郎)